

令和6年度第3回座間市地下水保全連絡協議会 会議録

- 1 日 時 令和7年3月19日（水）14：00～
- 2 場 所 市役所5－3会議室
- 3 出席者 委 員 西海会長、山内副会長、飯島委員、坪田委員、西委員、杉浦委員、
加賀原委員、田川委員
事務局 暮らし安全部長、生活安全課長、主任、主事、主事
- 4 公開の可否 公開 一部公開 非公開
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 題
 - (1) 令和6年度座間市地下水保全基本計画改定業務委託及び座間市地下水総合調査事業委託について
 - (2) 有機フッ素化合物分析について
 - (3) その他
- 7 配布資料
 - 資料1 令和6年度座間市地下水保全基本計画改定業務委託及び座間市地下水総合調査事業委託
 - 資料2 座間市地下水保全基本計画（素案）
 - 資料3 有機フッ素化合物分析 1月調査の結果について
- 8 議 事
 - (1) 令和6年度座間市地下水保全基本計画改定業務委託及び座間市地下水総合調査事業委託について
 - ① 事務局説明
今年度行っている地下水保全基本計画改定の中間報告と地下水総合調査の結果報告を行います。
なお、報告は当該事業の委託事業者から説明をします。
 - ② 質疑応答
 - ・加賀原委員
渇水時の対応方法として、採取量を60%に制限するという事ですが、飲用も工場用水も一律で減らすという事でしょうか。
 - ・事務局
今回の解析では一律で60%に制限しておりますが、運用の際には再度検討が必要かと思

います。

なお、ここでの採取量というのは目標採取量となっております。現状の採取量は目標採取量の約70～80%ですので、60%制限と言っても現状の採取量から比較をすると、約70～80%の制限となります。

・西海会長

100年に一度の渇水が起きたときの対応方法について、信憑性はありますか。

このシミュレーションは機械を使っているのでしょうか。

・事務局

三次元水循環解析モデルを使用しておりますので、回答としては機械を使っているということになります。

再現性については担保をしているつもりですが、100年に一度の渇水のモデルについては、昨今の気候変動で予測を超える渇水が起こりうる可能性もありますので、そのようになった場合は予測の精度が落ちるとは思います。

現在の気象状況の中では、それなりに信頼のおける解析結果だと思われれます。

・西海会長

わかりました。

・事務局

事務局からのお知らせで、基本理念の案を現在3つ出させていただいております。

来年度は、この中から1つに絞っていきたくないので、のちほどメールでアンケートを送付いたします。その御回答で御意見をいただければと思いますので、よろしくお願ひします。

・坪田委員

これは、理念によって計画の内容が変わるという事でしょうか。

・事務局

いえ、中身は同じです。ただ、市民の方の目に留まりやすいものをと考えております。

・西委員

広報ざまや市ホームページで水源保護地域等を周知と記載されておりますが、なかなか見つけづらいので、もっとアピールが必要と思われれます。

調査について、過去にテトラクロロエチレンが超過していた経過があるようですが、この原因はわかっているのでしょうか。

雨水浸透ますの助成金額を優遇する等と記載されているのですが、雨水浸透ますの助成というのは、雨水を溜める物の助成とは別でしょうか。

また、資料1の記載について、分かりづらい点が多数ありますので、市民にとってわかりやすい文章を心掛けてください。

雨水浸透ます設置調査の建築時期の区分けが何故1980年になっているのか、少し情報が古いと感じますがいかがでしょうか。

・事務局

まず、ホームページの記載については、御指摘いただきましたので、内容を確認して検討します。

テトラクロロエチレンについては、原因はわかっておりませんが、継続して調査をしております。

補助金の助成についてですが、雨水貯留槽のことを御指摘いただいたかと思えます。こちらの補助金は、雨水浸透ますと雨水貯留槽のどちらも対象となっておりますが、記載内容については改めて検討します。

資料1の記載については、なるべくわかりやすいように努めます。

・事務局

建築時期の区分けですが、市の要綱で1980年から雨水浸透施設の設置について指導を行っておりますので、参考のために比較出来るよう記載しています。

・飯島委員

平成28年の現計画P23には、地下水対策基金の記載がありますが、改定後の計画には記載されないのでしょうか。

・事務局

今回の報告は中間報告のため、今日の内容が改定後の計画の全てではなく、基金について新計画で触れるかは未定です。

なお、現計画P23は旧計画の内容を記載している部分のため、平成28年より過去の計画について触れているものです。

・飯島委員

この基金については、何か文書に記載されているのでしょうか。

・事務局

基金については条例で定めております。

・坪田委員

雨水浸透施設設置調査の中で、一部設置している施設は0.5ポイントで計算しているようなので、この結果は純粋な設置率ではないという認識でよろしいでしょうか。

・事務局

はい。便宜上そのように計算しております。

なお、平成29年度地下水総合調査にこの方法で行っておりますので、その方法を踏襲しております。

・西海会長

ありがとうございました。

それでは、事務局からのアンケートについては、皆さま御対応をお願いします。

(2) 有機フッ素化合物分析について

① 事務局説明

有機フッ素化合物分析について、1月に地下水調査と河川調査を行いましたので、その結果についてご報告します。

まず、地下水超過の結果、暫定目標値の超過はみられませんでした。

つづいて、河川調査の結果、暫定目標値の超過はみられませんでした。

地下水の来年度調査については、第2回地下水保全連絡協議会でお示ししたとおり前回超過した井戸1地点、その他市内全域の分布状況を把握するため5地点、計6地点で年2回調査を行う予定です。

河川の来年度調査については、今年度と同じ2地点で年1回の調査を行う予定です。

報告については以上です。